

## 5. スターチス

### ・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
10+1	ゲッター水和剤	散布	－	5 回以内	花き類・観葉植物（ひまわり、ゼラニウムを除く）
9	フルピカフロアブル	散布	発病初期	5 回以内	

### ・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	サンヨール	散布	開花前まで	8 回以内	
19	ポリオキシシンAL水溶剤	散布	発病初期	8 回以内	花き類・観葉植物

### ・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオンフロアブル	散布	－	6 回以内	
15	カスケード乳剤	散布	発生初期	3 回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
- 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、「24. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
灰色かび病 (F)	生 育 期 間	1. 施設内が過湿にならないよう密植を避け、換気を図る。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 4. ゲッター水和剤の 1,000 倍液、フルピカフロアブル 2,000 倍液のいずれかを散布する。 5. 除湿機を利用すると発病軽減できるが、完全な防除は困難である。薬剤を併用すると散布回数の削減と防除が可能である。 [参考農薬] 1. サンヨール 500 倍、又はポリオキシシンAL水溶剤 2,500 倍液を散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。 2. 「22. 除湿機を利用する場合の注意事項」を参照する。
ウイルス性 病害 (V)	生 育 期 間	1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、ウイルスフリー苗を用いる。 2. アブラムシ類防除のため、「21. 花き類・観葉植物」の項を参考に、定期的に殺虫剤を散布する。シルバーストライプフィルムでマルチすることも有効である。 3. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 4. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。	1. 育苗時の感染に厳重注意する。 2. 病原ウイルスにはCMV、TuMV、CYVV、BBWVなど知られているが全てアブラムシ類により媒介される。 3. 上記の他に、GALVによるウイルス病害も県内で発生が確認されている。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
ウイルス性 病害 (V)	生 育 期 間		4. G A L Vは土壌伝染するので発病ほ場では連作しない。 5. 本病が疑われる株に用いたハサミは、そのまま健全株に使用せず、洗浄して使用する。
黄化えそ病 (T S W V) えそ斑紋病 (I N S V)  (V)	植 付 前	1. 無病苗を使用する。	1. 育苗時の感染に嚴重注意する。 2. 本ウイルスは、アザミウマ類により伝搬される。 3. T S W V、I N S Vには簡易診断キットが市販されているので、それらを用いて診断できる。
	生 育 期 間	1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、ウイルスフリー苗を用いる。 2. アザミウマ類の飛来・増殖を徹底的に阻止する。ハウスの開口部を防虫ネット(0.4mm目合い)で被覆すると、侵入を軽減できる。 3. 殺虫剤を定期的に散布する。 4. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 5. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。	
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	生 育 期 間	1. シルバーストラップフィルムでマルチする。	1. ウイルス発病株は、早期に抜き取る。
ヨトウムシ	生 育 期 間	[参考農薬] 1. アディオンフロアブル 1,500 倍液を散布する。	1. アディオンは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
シロイチ モジヨトウ	生 育 期 間	[参考農薬] 1. カスケード乳剤 4,000 倍液を散布する。	1. カスケードは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. カスケードは、シヌアータ系の品種では薬害のおそれがあるので使用しない。